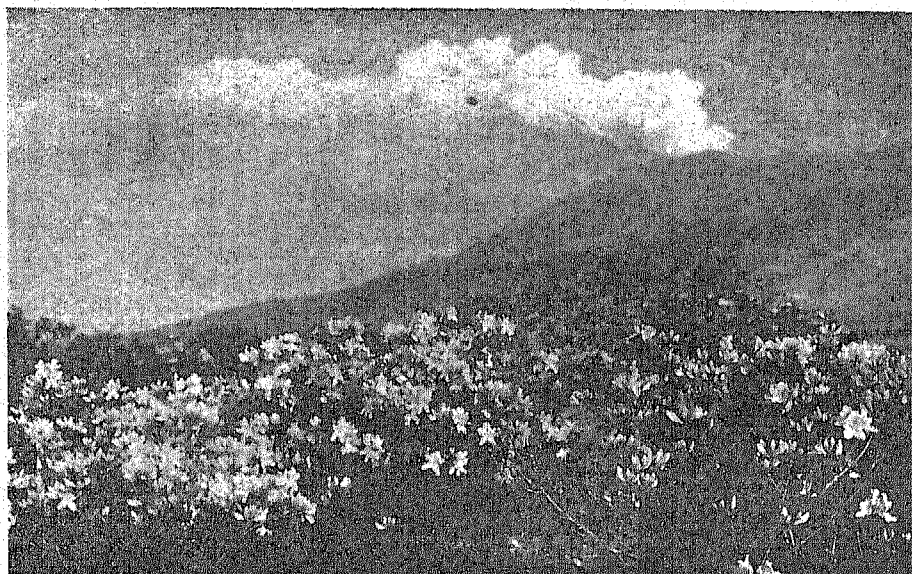


會曲干人法團社



△表紙 陽春麗花飄る淺間山麓	柳澤 延房(一)
△明日への備へ	味 澤 生(二)
△江都雜信	出野 正雄(二)
△選蝦抄	(三)
△母校便り	
○纖維化學科新教室完成	
○千曲寮新設	
○會田源作助教授新任	
○謠曲研究會	
○映畫班の活動	
○校內喫煙に注意喚起	
○新入團員歡迎退足會	
○佐原良太郎教授新任	
○本年の春獵飼育實習	
○紅葉山御養蠶所拜觀	
△本會記事	(四)
△敘任辭令	(四)
△計 報	(六)
○弔慰金募集	
○弔慰金報告	
○噫西谷剛一君	飯田 武門
△會員勸靜	(七)
△遠藤教授退官記念資金募集	(八)
△指定旅館案内	(九)

# 明日への備へ

柳澤延房

獨逸は例の電撃作戦で、ポーランド、スカンジナビヤ、西歐、バルカンと次々に攻略し、資源を確保して、戦争への經濟力増強を計つてゐる。盟邦獨逸の行動は實に天時の武者振りであるが、一次大戦敗後の苦境試練時代と明日への希望に燃えた心構へと努力の姿こそ我々の學ぶべき獨逸の偉大な姿であらねばならぬ。

今度の戦争に入る前に獨逸は軍需資材並びに國民生活必需物資の輸入に識者の注目を惹いた。例へば屑鐵合金鐵は平時の四倍、小麦の如きは平時の二十倍の輸入激増である。切符制度等は獨逸軍がポーランドへ侵入したその時に施行されてゐる。獨逸の戦用自動車は約二百萬臺といはれ、或は山に駆け登る特殊自動車、或は大型の歩兵輸送用装甲トラクタ、或は巨砲を運ぶ牽引自動車或は重量タンク等幾多種の自動車から機械人形の様に有機的な聯働を保ちつつ進撃するのである。山岳重疊し北歐のトロットハイム、ベルゲン、スタパンゲル、又近代築城の粹を盡した金城湯池マザノ、ジークフリートへの間髪を入れぬ進攻作戦もこの機械化部隊である。ヒットラーが政權を掌握して以來八年を通じて計畫的に準備されたのである。

獨逸の生産と消費の調整機關等も戦前より活動してゐたのに對し、英、佛の戦時經濟政策は全く獨逸に劣り、諸機關の改組設立に時間を食ひ主要資源の動員は遅滞し、配給機構の不備は工業に對する原料供給を困難ならしめてゐる。英國の主要原料のストックは戦時需要量の三ヶ月分に過ぎないとさへ言はれてゐた。獨逸の入念な準備は英、佛に比べて著しく劣り勝の原料を最も効果的に利用してゐる。獨逸の心掛けは努力により、頭腦の力によつて國土からその必要とする最後の一物までも實用の域に持ち來さねばやまぬのであ

る。「獨逸人は天才的の國民に非ず」と獨逸人自身告白してゐる。努力と研究組織がかくあらしめてゐるのである。知能の動員は平時から行はれてゐる。しかも石炭液化の四ヶ年計畫も只生産擴充を自體の機構に非ずして世界の石油資源が使ひ果された後に於てゲルマン民族が世界の生活に於ての用意を持つたもの今からの原料革命なのである。そして、ベルギウス法、フイワンヤ法、イー、デー法を考案して石炭を液化し、自給自足の確信を持つてゐる。元來獨逸は軍需原料に乏しいことは日本と同じだ。「マークにて賄ひ得るものは高價にして高價に非ず、國外より金で求めるものは廉なりとも廉ならず」といふ獨逸の考へ方を我々は充分味つて見ねばならぬ。自由經濟に走つた日本が國外に支拂つた工業技術の代價たる特許料は恐らく年數億圓に上つてゐる。朝鮮の産金額年數億圓といふが、産金政策によつて得られたその相當金額が外國に特許料として支拂はれて行く。その上特許契約により生産量を報告する義務を負はされたりその生産品の海外への販賣制限を受けてゐる。

鮎川氏の或講演で「日本の技術は、この儘に放置する時は獨逸の現狀に到着するに百年を要する」といふてゐる。新しい科學は新しい資源を生む。石油の不足は石炭液化を考察せしめ、粉鐵質鐵は、電撃法、バツセル法、クルツツ法等の製鐵法で之を處理する。探炭、洗炭に一段の工夫をすることにより、良炭の回生を見得るのである。米國の軍需資材の豊富さに對する日、獨逸、伊、樞軸國は大きなハンデキャップを負はされてゐる。

それ丈に新しい科學に大きな期待がかけられてゐる。石油の世界總生産額の六十パーセントは米國が占め、日本、獨逸は各々一二パーセントに過ぎぬのである。そろ／＼米國の石油埋藏量が潤滑して呉れぬかなどの期待を日本人の誰かが持つたとしたら、とんだ間違ひだ。

六年前にはローザンゼルス市の臨海地帯に又三年前には、イリノイ州に物凄い油井を開き、昨年の如きは油井數三萬四千本、石油生産の最高記録を作つてゐる。航空機や船艦一つ作るに數百種類の材料を必要とするが、そのたつた一つの材料が無くては製作上の苦勞や、能率の點の支障は大變なものである。米國の戦時原料確保に困難なものは、ゴム、クロム、マンガン、錫、ウオルフラム位のものである。ニッケル、石綿は自國に無いが國境きの加奈陀に澤山ある。

次に工作機械について見れば、日本は第一次歐洲大戰により製造技術の進歩は、精度に於ても、高級なものには、一流外國品に遜色なく國產品位の向上を認め得た。我々工作機械工業確立への第一歩に於て、ワシントン條約締結後、世は軍縮となり、八八艦隊編成の時、敗戦獨逸は戦争中は國内の急需に追はれ進歩改善の暇もなく、大戰終了頃は最早米國に追ひ付く見込のない程の懸隔が出来、加之國內産業の大疲弊と、インフレによる經濟界の混亂等のため英國にすら劣り、再起不能とさへ思はれたのに、シュレージンガー指揮の下に、規格統一の實施を徹底せしめ、他方獨逸製品改良を計り、他國に市場を得て優秀精密な一流品の輸出に務め、ためにナチ政權出現迄と、ナチ政權確立以後ヒットラーが「四千五百萬の英國人が世界に於て、四千萬平方分の土地を支配し、八千五百萬の獨逸人に六十萬平方分の土地しか與へられぬ」不合理を指摘悲憤絶叫して英攻勢に出た現在に至る迄、再軍備を目指し、自動車工業、航空工業の大擴張、軍需品生産大擴張のための工業機械工業を發達せしめたのは、苦境試練の時に、来る征伐を胸に深く誓つて勇々しくも立つた獨逸の現在の姿である。語は横道に

入るが、獨逸工作機械の今日の隆盛を致さしめた、シュレージンガーは昭和三年の萬國工業大會に東京へ獨逸代表として來朝してゐる當時學生であつた私共も、その發表を傍聴したのであるが、このシュレージンガーは本國から日本工作機械が將來獨逸製品の競争相手として、恐るべきや否やの調査を依頼されたの對し、その觀察報告は、日本機械工業の貧弱低級さの報告以外何もなく、日本への競争は案するに足らぬと結論を下してゐる。ユダヤなる彼は、ナチ政權確立後、國を追はれ、日本でも彼の誘引を數回試みたが實現されず彼は今何處の國にあることか。

彼は今何處の國にあることか。

米内前首相は自主的外交といふ言葉を使用したのであるが、自主的工業といふ言葉を再三反省吟味して見ねばならぬ。我々は、友達に接し交つて、強く心に打たれ、頼母しい男としての魅力を感じる一つはやはり明日への心の用意と、それに對する準備に孜々として勵み得る友だ。又かゝる友こそ現代國家が要求してゐる國民の一人である。東亞の盟主を以て任する日本は一刻も早く立ち上らねばならぬ。科學技術も動員せねばならぬ。一日も缺くことの出来ぬ石油も、百年前は米國東部沿岸の住民が鹽を得るための鹹水井戸に浮ぶ惡臭の液体として惱まされたのである。石炭も初めは、それを燃料として使用せんと試みた學者連に棒で突き廻されて、石炭不價值の酷印を押されへした。日本に澤山ある砂鐵も、電擊精鍊法で價值を見出されんとしてゐる。煉鐵爐から出る鐵滓は廢棄して顧られなかつたが、廢棄處分さへ厄介視されたのに、時代の開光を浴びて、保温、保冷、防熱、防寒、防音の鐵滓綿として盛頭して來た。トーマス製鋼の際の鋼滓は過燐酸石灰に勝る數々の長所を持つた機肥として、日本では既に試験済みである。など／＼増産と廢品回收の徹底が今こそ力強いスタートを切つたのである。自主的工業といふ言葉を當り憚る所なく高らかに叫び得る日を近い、極く近い將來に期待するのである。

# 江都雜信

味澤生

東京に移り住んで、かれこれ十年になる。尤も中二年前、江戸から離れては居たが、再び江戸へ舞ひ戻つて足掛四年、今では一つはしめ東京人のつもりで居る。こんな手合に、つもりで居られては、「東京」の方で迷惑かも知れぬが、大体東京といふ所は、七百萬の大部分がこんな手合である。数は力である。生粋の江戸ツ子は、何時の間にか、隅の方へ押し片づけられて、それらしい生きのいいのは、餘り見當らぬ。火事と喧嘩と初鯉、天ぷらとまぐろの壽司を食つて、背越しの金は持たぬといふ、舊型の江戸ツ子氏に會ひたいと思つても、今では大臣に會ふより難かしいかも知れない。江戸三百年の文化様式、生活様相は七十年の東京様式に、完全に喰はれてしまつた譯である。芝で生れて神田で育つた纏持も、警防團と改る御時世とあつては、何時迄もペランメーでもあるまい。兎に角、純粋としの味と共に、舊型江戸ツ子は、スフ、外米の東京ツ子に替つてしまつた。だから田舎出の者でも、小さくなつて居る者は一人も居ない。それどころか、最近では田舎に郷里を持つ者の方が、何となく大様に構へて居る。物資不足が其の原因である。いよ／＼となれば、田舎へ歸つて土を掘るといふ決心がつくからであらふ。金く、漬物が、卵が、柿が、リンゴが、田舎から送られる家庭は、所謂江戸ツ子家庭には、羨望の的である。金さへあれば何でも間に合つた。元の東京と東京が異つて来た。不自由は人間を鍛へる。消費生活者、東京人へのよき試験といふものだらう。

取りになるのは當り前であらう。所が、其の當り前てしやうに大異變が來てしまつた。まだ食物に統制値の無かつた一昨年の夏邊りから、食物がベラボーに高くなつてしまつた。金額のことを言ふのは聊か氣がきすが、其の前途は一人前、三圓か五圓で結構名のあつた家の飯が喰へたのに、段々上つて其の年の秋邊りには、完全に天井値となつてしまつて一人前十五圓、二十圓となつて來た。喰ひ度い胃袋、若返り度い心臓は益々旺盛だが、皮一重隣にある財布の方が、赤旗を掲げては萬事休さざるを得んことなるのも亦、當り前であらう。兎角人間といふものは、食氣と色氣には眞剣になるものだ。市民の聲に政府當局も捨てては置けずとあつて、實情調査をした所、一ヶ三圓のすしを賣つて居た家があつたとかで、大臣諸公もカン／＼になつた。早速食物の公定價が出来て、晝食二圓五十錢迄夕食五圓迄、以外は出すべからず、喰ふべからずとなつた。晝酒は御法度、花柳界は五時から、十一時以後は客は上げぬとなつて、一先づ食、色、兩本能の統制が出来上つた。大体これて街の君子連の酒癖は消へたかに見えたが、事變の生活への重壓は、こんなどうでもよい問題は、文字通りどうでもよくなつてしまつた。

ある。米は外米で結構、酒は無ければそれでよい。女は女房で我慢する。借り得て妙なりと感じた時には、老眼鏡が必要になつて來るのだから世話はない。

題する所の江都雜信、ザツトかくの通りだが、其處で諸君、かく書いたからとて、決して來訪者の諸君を敬遠の一文ではない。御上京の節は遠慮なく御訪ね下さい。茅屋ながら茶も沸けば米にも御缺かず、足を伸すに足る位の疊も御座る。加ふるに其の中には例外といふ都合のよいものもあり、法律にさへ但書がある。況してや、友ありて遠方より來る。何ぞ夫れ、但書を發動せざるべからざらんやである。但し、外米嫌ひの方は内地米を、二本以上イケル御人は其分を御持参願ひ度し。小生の分迄の御心配はドナラても宜しい。其處はソレ、水魚の心、これは冗談。駄文多謝。

## 選蛾抄

出野正雄

北の國の春は遅い。遠い故郷の花のたよりと春雨のおとづれをきいて私はむせび泣くやうな春の感傷を想ひ出すにはあられもないのである。かういふ遅い春の氣配がさくばくとした私の身邊に漂ひ始めた五月に近きころ、ゆくりなくも曾遊の地、西豊へ出かけて柞鷲原々種の病弱検査作業に従ふことになつた。うらうらとした早春の旅に列車の窓に映る私たちの眼にふれたものは半歳の凍結からやうやくあけ放たれたふくよかな大地と、ところどころにひびとむれ、ふたむれ佇立するどろやなぎの葉の様なすがた、美しい作條に沿つて點々としか行儀よく並ぶ土養の堆積であり、家畜を追ふ子供等の歡呼するありさまである。西豊についてみると路傍の雜草は僅かに青み、ねこやなぎが銀色に輝いてゐるなど、もういくらかも春の景物が轉つてゐた。夥しい数の蛾が作業場では鱗毛の飛散する中仕事に馴れた苦力たちが夜を徹して忙しく立ち働く。探卵にさきだつて雌蛾の肉眼検査を行ひ、外部微候に依る不健全蛾を排除し肉眼的に無毒にして健良と認められるものを用ひて蛾別に袋製探種法に依る探卵を爲し所謂改良自然沈降検査法に依る検査を行ふのである。この場合、選蛾の微粒子病防除の効果についての實驗成績報告は無いやうであるが、相當に有効なものであることはうなづけると思ふ。改良自然沈降検査法についてはすでに二三の學術雜誌に報告されてゐるから解説の煩を避けることにするがこの方法も亦相當に有効なものであることを認めて私達はこの採用したのである。一昨年の秋だつたのを記憶するが、藤又藤夫さんが、さる會合でこの改良自然沈降検査法について私に酷評されたことを記憶してゐるが、私たちが滿洲國の柞鷲原に携つてゐる者として（此處に詳しく申しわけをする暇は無いのであるが）現在の滿洲柞鷲原の實態を知つての上の仕事であることとを言ひ度いのであつて別に辭興の言葉尻をこらへようとするのはあたらない。また批評の對照が「検査方法」にあつたのか、或はそれ以外のところにあつたのか、その邊は判然しないから取り立てて議論することも要らないと思ふ。けれども滿洲國は如何なる場合と雖も權威ある學說を傾聴することと躊躇しないのである。然るに後述の誠意とあふれるやうな親切をもつて與へられる忠告の指さす方向に我々は感激の眼をもつて注目することになり、世の中は三日見ぬ間に青葉かな。未ださういふ青葉の候ではないが、僅か數日、マムクをかけ風呂敷で顔冠りをして鱗毛にまみれ、或は顯微鏡をのぞいて胞子の探索に耽つてゐる間に戸外の草木がびく／＼する程あつてゐることに氣づいたのである。土筆が出ると、鈴蘭が匂ふ。わらびがとれる。蝦百合が咲く、さういつた蠶桑の柞樹に柞蠶を放ち、天蠶を養つてゐた三年前の西豊の山がなつかしく、眼にしみる様な濃い緑が忘れられないといふ頃を、美しい雲の流れでゐるのを見るたびに思ひ出した。今年もさういふ季節がせまつて來た。

私は一週間足らずで西豊を去つて、また新京に歸つて來た。ひととき、ほこりつぽい風が吹けばやがて柳絮が雪の様に舞ひ、リライの花がにほふのである。

— 皇帝訪日宣詔記念日に —

## 母校便り

### 繊維化學科新教室完成

昨年八月着工の繊維化學科校舎(二階建々坪三八七坪、平屋建々坪一五二坪)は新學期の四月に完成、現在内部諸器具を整備しつつあるがこの程舊蠶絲化學教室より一部の移轉を行つた。二階階下は生徒化學實驗室、顯微鏡實驗室、教授研究室、藥品器具室、事務室、科長兼研究室、階上は教室三室、合併教授を兼ねる小講堂、光學實驗室、教授準備室、研究室、標本室等あり、廊下屋根裏は物置になつて居る。平家建は生徒控室、危險ガス實驗室化學實驗室、天秤室、會議室兼應接室、器具室、教授研究室等あり、其外長さ四間の兩側使用ドラフトが出来てゐる。

### 千曲寮新設

先年從來の一年生入寮を一、二年生入寮に規定を改め寄宿舎の狭さを感じてゐたが更に昨年来新設纖維化學科の生徒も増加してゐるのて愈々新寮の増設が必須となり、新築至難の折柄、常入宿山茂平太氏の二階建蠶室を改造したものを借受け之を千曲寮と命名した。この千曲寮は調理室、食堂、新聞閱覽室の外八部屋で、現在三十五名が寄宿してゐる。

### 新學年學級主任

昨年十二月報國團の結成と相待つて設置された學級主任の新學年の任命は四月一日左の如く行はれ訓育教化的徹底を期しつゝある。

昭和十六年度各科級主任(四月一日)

第三學年 第二學年 第一學年  
養蠶科 倉澤教授 山口助教授 蒲生 教授  
製絲科 大瀧教授 林 教授 窪田助教授  
絹紡織科 野口教授 小松 教授 湯原助教授  
纖維化學科 奥教授 大平 教授

### 會田源作助教新任

今回纖維化學科の方に四月十五日付を以つ

て會田源作助教が新任された。同助教は明治廿九年生、福島縣の出身で、昭和四年桐生高等工業學校卒業、同五年山梨縣立商工學校教諭、同十四年同縣立津崎中學校教諭、商工學校教授嘱託を兼務、同十五年群馬縣立伊勢崎工業學校教諭に轉じて現在に至つたもので、御精勵を御期待する次第である。



### 各級總代任命

本學年第一學期の各クラス總代は四月十五日次の如く任命された。

養蠶三年	大久保孝一	正總代	大瀧	吉郎	副總代
二年	石井 耕一		西野	久	
一年	成瀬 正夫		牧野	嘉雄	
製絲三年	小林 武志		鈴木	敏夫	
二年	渡邊敬一郎		福島	正富	
一年	岡 弘		山本	十三	
紡織三年	小川 弘之		宮澤	矩雄	
二年	寺西 徳雄		小林	政雄	
一年	小相澤榮夫		今枝 重明		
纖維化三年	小池 保義		高見澤良夫		
二年	柳澤千代茂		片山 敏		
一年	赤池貴之		竹田トヨ子		
教婦二年	木村 スエ		飯田 永子		

各寮長任命  
新設千曲寮を加へて四寮の本學年一學期の各寮長は四月十五日次の如く任命された。

寮長	副寮長
修己寮 大泉和也(化二)	山中 明(蠶二)
東寮 田爪正記(絲二)	田端藤衛(蠶二)
高寮 西野 久(蠶二)	龍竹璋夫(化二)
千曲寮 石井耕一(蠶二)	福島正富(絲二)

### 謠曲研究会

報告團になつて文化部に謠曲研究會が生れて蒲生文化部長自ら其の世話を努められてゐるが、毎週火曜日放課後二時間千曲會館で教習の聲がする。其中、實生流は鷹野悦之助氏(鹽川村)蒲生教授、觀世流は阿形謙師が師匠で各流派共、生徒は十五名程あり、現在竹生島を教習してゐる由。

### 映畫班の活動

報國團文化部内に設けられた映畫班は學生の文化的向上、情操陶冶、娛樂善導を目的に名畫の鑑賞、批判、後援其他小型映畫の撮影を事業としてゐるが設立以來同班の推薦せる映畫は西住戰車長傳、驛馬車、燃ゆる大空、小島の春、美の祭典等て大休文部省推薦映畫であつた。尙同班内の寫眞同好會も作品の研究、批評、發表等着々事業を行ひつゝある。同班員は仲々多数を占め、其の指導には期して待つべきものがある。

### 防火講話

最近頻々と大火災害が新聞紙上に見えたので、本校でも特に注意を喚起するべく四月十五日土曜警察署長を招き、講堂に於て一時間互に防火に關する講話を聞いた。

### 滑空機入魂命名式

過般班員の手によつて製作された滑空機の入魂、命名式が四月十九日午後校庭に於て行はれた。井上團長挨拶、高木國防部長、來賓上田飛行場長の祝辭があつた後、班員の牽引に依つて校長、佐藤、原田、岡教授、依田書記氏等の試乗があつた。

### 志賀生徒主事補母堂逝去

生徒主事補志賀章雄助教の御尊母(六十二歳)には山形縣の郷家にて永らく病氣療養中の處効無く遂に四月二十三日逝去された由謹んで御悔み申上げる次第である。

### 校内喫煙に注意喚起

先年校内喫煙に關し火災防止の上から喫煙場所を指定して置いたが徹底を缺く所あるを遺憾とし、四月廿四日全生徒に對し校長より節煙並に喫煙道徳に就いて訓話があり、左の指定喫煙場所には吸煙壺を設け、指定場所以外に於て喫煙する者には訓戒を與へ、二回以上反則する時は停學處分送することとし徹底を期することとなつた。即ち指定場所は生徒控室、乾蘭室南池端修己寮西テニスコート、グラウンド東北、東南兩隅、紡織科池端、纖維科小使室、テニスコート、ベンチの八ヶ所が實習中休閑時に限り養蠶小使室、製絲小使室が許されてゐる。

### 養蠶科職員會ハイキング

養蠶科職員會は業手、傭人を同伴して四月廿七日の日曜日に一行廿五名で小諸から一里餘の菱野嶺泉に春のハイキングを行つた。風稍薄寒い日はあつたが春陽を充分浴びて佐藤科長を始め頗る元氣で往復の道を或ひは語り或は唄ひつゝ午後三時には小諸に歸り懷古園を逍遙し有意義な和樂の一日を送つた。

### 學生義勇軍に關する講話

四月廿八日午後、皇后陛下より賜りたる結核豫防に關する令旨の捧讀並校長の結核に關する訓話があつた後、江木義三郎氏の學生義勇軍に關する講演があり、學生は修練に對する氣魂、義勇奉仕の精神を強く喚起される所があつた様である。

### 蠶靈供養祭

本校に於ける幾多研究の犠牲となる數多くの蠶兒に對し其の靈を慰め供養すべき本校蠶靈供養祭は四月三十日別所常樂寺僧侶讀經にて井上校長、佐藤養蠶科長、大久保生徒總代の焼香あり盛大に行はれた。

### 新入團員歡迎遠足會

四月廿日櫻花満開は己に過ぎてはゐるが、



百餘名の新團員を迎へた母校報國團では恒例の歓迎遠足會を別所常樂寺に催した。同日蠶靈供養祭を終つた生徒、職員一同は電車にて別所常樂寺に至り堂内に於て井上團長の挨拶、團員總代渡邊敬一郎君(絲二)の歓迎の辭、新團員總代柳澤千代君(化一)の答辭があつた。後、住職半田孝海師の別所北向觀音の由緒其他歴史的な話を約一時間に亘つて聞き、休憩畫食して陽光うららかな歸路に就いた。

### 佐原良太郎教授新任

今回纖維化學科の方に五月二日付を以つて佐原良太郎教授が新任された。同教授は明治四十五年生、東京市の出身で昭和七年東京府成城高等學校高等科卒業、同年京都帝大文學部(化學專攻)卒業し、暫らく花王石鹼株式會社に勤められ、同年九月京都帝大理學部副手として化學教室に勤務、同時に京都府聖峰中學校教授囑託を勤められたが、同十四年同帝大助手に任ぜられ理學部に勤務、専ら化學研究に従事され、現在に至つたもので、訓育、研究に大いに御期待する次第である。



### 勤勞班修練作業

曇に千曲川原の市有地開墾に勤勞の餘を揮つた勤勞班員は新學期より校内作業に方針を採り五月一日、五日の兩日放課後一時間宛豆作付の爲の垣根桑の拔株、除草に奉仕した。勤勞奉仕の生徒は大久保、島田、原、矢川、大瀧(以上蠶三)細川(絲三)福島、石橋、

鯉部、蜂谷、後藤(以上絲二)飯塚、高見澤(以上化二)君等であつた。

### 本年度の春蠶飼育實習

例年春蠶期に於ける飼育實習は養蠶科三年及二年である、本年は養蠶に四月二十七日の霜害で約二割程度早生桑に被害があつたが、五月一日に催青に着手、十三、四日掃立豫定て三年生擔任教官山口助教授、北村、清水兩副手、二年生擔任教官蒲生教授、小泉、堀江兩副手等が準備を進められてゐる。三年生は廿六名一人當り九蛾の受持で原蠶飼育系統維持、品種育成、採種、蠶種製造、其他各種調査に亘る實習であり、二年生三六名は二名宛一區を擔當し、生産費輕減に關する經濟的研究飼育で、箱飼、パラフィン紙育の外昭和育活葉育も行はれる。

### 宮中紅葉山御養蠶所拜觀

養蠶科三年生廿九名は倉澤教授、山口助教授引率にて五月六、七日紅葉山御養蠶所拜觀並に見學旅行を行つた。六日早朝上田發、蠶絲試驗場を見學したるは午後、先輩各位の茶菓接待に預り神田錦照館に宿泊、翌七日午前十時より御養蠶所拜觀、蠶絲會館で千曲會東京支部の畫食接待あり、午後帝大附屬傳染病研究所を見學して一同無事歸校した。

### 本會記事

#### 本會日誌

四月十五日 會費納入に關し定款第八條第二號後段該當者へ照會狀發送す。  
四月十八日 故土屋安治氏遺族へ有志弔慰金第三回分贈呈す。  
四月二十二日 渡邊雪雄氏逝去せらるる電報にて弔意を表す。  
四月二十五日 中島俊秋氏の告別式執行せらるる電報にて弔意を表す。

五月五日 養蠶第三學年生見學旅行のため上京に付東京支會長へ依頼狀發信す。  
五月七日 支會交付金及第一回總會出席者に對する旅費送金す。

### 向上資金釀出

本會向上資金中へ左の通り釀出さる感謝に堪へず。本紙上を以て受領證に替へ御禮申述べ次第なり。  
金參圓也 水野義男氏  
(以上福島支會取扱)

### 統後資金應募者

(頭書ニ「トアルハ第一回釀出者」)  
2トアルハ第二回釀出者)  
1 金五圓也 松野 正一  
2 金五圓也 宮田 清義  
1 金參圓也 鹽原 克己  
右合計金拾八圓也 高田茂重郎  
累計金壹千百參拾六圓也

### 會費領收 (五月八日現在)

昭和十五年度會費金四圓也 奧村忠治(蠶三)  
勅使河原重之助(蠶九) 宮田 清義(絲四)  
楠八重行雄(蠶五) 今村與四郎(紡五)  
昭和十六年度會費金四圓也 山形新太郎(蠶三)  
米田 俊雄(蠶二) 大野 孝治(蠶三)  
岡 卓郎(蠶九) 宮田 清義(絲四)  
奥村 忠治(蠶三) 飯田 武門(紡六)  
今村與四郎(紡五) 昭和十七年度會費金四圓也  
宮田 清義(絲四) 終身會費完納者 小山甚三郎(絲二)  
川島 卓爾(絲二) 河西 尙一(紡三)  
若林新一郎(絲二) 中村登一郎(紡九) 林 振福(紡三)  
入會金納入者 完納者 鈴木 喬(蠶六)  
井上 貞二(蠶三) 中村登一郎(絲九)  
富部 豊(蠶三)

林 振福(紡三) 飯田 武門(紡六)  
金拾圓也 小林 龍太(紡二)  
金五圓也 有川 博(蠶三)  
未納會費納入者 金拾八圓也(昭和十四年度昭和十六年度分)  
金四圓也(昭和十六年度分) 濱井 壽夫(蠶二)  
金四圓也(昭和十六年度分) 福富 繁(蠶七)  
金四圓也(昭和十六年度分) 小林 輝夫(蠶三)  
金四圓也(昭和十六年度分) 兒玉 忠雄(絲二)  
金貳拾八圓也(大正、昭和、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四年度分) 西川 梅次郎(絲七)  
金參拾四圓也(昭和四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四年度分) 河西 尙一(紡二)  
金四圓也(昭和十四年度昭和十六年度分) 金田と乃子(敦七)  
金八拾錢也(昭和十六年度分) 片山 幸(敦七)

### 叙任辭令

現職員之部 群馬縣立伊勢崎工業學校教諭 會田 源作  
任上田蠶絲專門學校助教授 任二級俸(四月十五日)  
上田蠶絲專門學校書記 和田 主計  
從七位勳六等功七級 任東京高等商科醫學校事務官、敍高等官六等七級俸下賜(四月二十三日)  
依願免本官(四月二十四日) 上田蠶絲專門學校校長 井上 柳梧  
陸敘高等官一等(五月一日) 京都帝國大學助手 任上田蠶絲專門學校教授 佐原良太郎  
敍高等官六等 九級俸下賜(五月二日) 敍高等官六等 舊職員之部 東京帝國大學教授 春日井 新一郎  
賜本俸九級俸(三月三十一日) 從四位勳四等 遠藤 保太郎  
敍正四位(四月二十三日)

卒業生之部

公立實業學校教諭兼 合監陸軍少尉從六位 公立青年學校校長兼 教諭正六位 公立實業學校校長ニ任ス、高等官四等特選 朝鮮公立實業學校教諭 福谷朝太郎 高等官六等 公立實業學校教諭兼合監 深谷 正一 七級停下賜 願ニ依リ本職並兼職ヲ免ス(以上三月三十一日) 從七位 同 從七位 敏正七位(以上二月一日) 同 三高等農林學校教授 篠田平三郎 公立實業學校教諭 川村吉太郎 高等官三等 公立實業學校教諭 齋藤 格次 同 高等官五等特選(以上四月一日) 同 地方技師 絹村 貢 六級停下賜 公立實業學校校長 田中 康雄 三重縣立員辨實業女學校校長ニ補ス 九級停下賜 同 岡山縣新見農林學校校長ニ補ス 藤 原 卓之 公立實業學校教諭 花岡 作彌 愛媛縣立伊豫實業學校教諭ニ補ス(以上三月三十一日) 同 地方農林技師 小林 茂雄 七級停下賜 同 八級停下賜(以上十五年十二月十五日) 公立實業學校校長兼教諭 櫻井 吉利 年功加俸年額金貳百四拾圓下賜(三月十四日) 全日本絹織物工業組合聯合會主催新興絹洋服 地展覽會審査官ヲ命ス(四月九日) 地方農林技師 宮城 博 地方商工技師 山田 斧一 十一級停下賜 公立實業學校教諭 中島 靜太郎 六級停當分千七百四拾圓下賜 同 田口 富五郎 六級停下賜 地方農林技師 臼井 要範 十級停下賜
--

本校辭令

九級停下賜 同 岸野 潤一 同 黒岩 覺 十級停下賜 同 小林 勳 公立高等女學校教諭 小 林 勳 七級停當分千五百圓下賜(以上三月三十一日) 公立實業學校校長 佐谷戸 健次郎 四級停下賜(三月二十四日) 同 田口 精一 副手ヲ命ス、製絲科勤務ヲ命ス 矢野 義進 同 北村 正夫 同 日村 崎三 同 松村 元一 同 堀江 平三 副手ヲ命ス、養蠶科勤務ヲ命ス 清水 彰 副手ヲ命ス、纖維化學科勤務ヲ命ス 中島 正己 (以上四月七日) 副手ヲ命ス、纖維化學科勤務ヲ命ス 大坪 健一 副手ヲ命ス、養蠶科勤務ヲ命ス 武井 和夫 (以上四月十一日) 副手ヲ命ス、絹紡織科勤務ヲ命ス 瀧澤 昌一 (四月十四日) 副手 井上 正人 願ニ依リ副手ヲ免ス(四月十六日) 副手ヲ命ス、纖維化學科勤務ヲ命ス 中島 俊秋 (四月十八日) 囑託 田口 精一 御用濟ニ付解囑(四月二十日) 副手 和田 主計 兼講師ヲ囑託ス 和 田 主 計 事務ヲ囑託ス 宮下 丈夫 會計課兼庶務課勤務ヲ命ス (以上四月二十六日) 上田 蠶絲專門學校助手 宮下 丈夫 兼講師ヲ囑託ス(四月二十八日) 佐藤 彌 副手ヲ命ス、養蠶科勤務ヲ命ス(五月一日) 清水 比呂夫 副手ヲ命ス、纖維化學科勤務ヲ命ス 遠藤 恒久 (五月一日)
--

新任御挨拶

謹啓 時下新緑之候各位益々御清祥  
之段奉賀上候、陳者小生儀今回不圖  
本校教授を拜命致候に就ては微力乍  
ら職責に全力を盡す覚悟に御座候間  
何卒御懇篤なる御指導御支援の程御  
願申上候  
先は御挨拶迄如斯御座候 敬具  
昭和十六年五月  
纖維化學科  
佐原良太郎

新任御挨拶

謹啓 時下新緑之候各位益々御清祥  
之段奉賀上候、陳者小生儀今回不圖  
本校助教を拜命致候に就ては微力  
乍ら職責に全力を盡す覚悟に御座候  
間何卒御懇篤なる御指導御支援の程  
御願申上候  
先は御挨拶迄如斯御座候 敬具  
昭和十六年四月  
纖維化學科  
會田 源作

轉任御挨拶

謹啓 時下陽春之候益々御清祥の段  
奉賀候、陳者私儀長野縣蠶業試験  
場池田支場在職中は公私共に格別の  
御懇情を蒙り候段奉謝候今般不圖  
御同縣蠶業試験場上田支場長拜命致  
候に就ては今後共一層の御指導と御  
鞭撻とを賜り度奉懇願候  
先は乍略儀以紙上御禮旁々御挨拶申  
述度如斯御座候 敬具  
昭和十六年五月八日  
長野縣蠶業試験場上田支場  
安 川 寛

轉任御挨拶

奉職の候益々御清祥奉賀上候  
陳者不圖秋田縣立大曲農業學校在任  
中は公私共に格別の御懇情を賜  
り候段有難く奉謝候此度新潟  
縣立上組農學校に轉任致し候に就て  
は何卒今後共一層の御指導御援助賜  
り度奉懇願候  
先は乍略儀以紙上御禮旁々御挨拶申  
述度如斯御座候  
昭和十六年五月一日  
新潟縣古志郡上組村曲新町  
四二五  
中 澤 二 郎

各位  
(猶千曲會關係各位へは本廣告を以  
つて挨拶狀失禮致し候間何卒不願  
上候)

御挨拶

謹啓 時下新緑之候先輩各位益々御  
清祥之段奉賀上候、陳者吾等母校在  
學中は格別なる御教導に預かり有難  
く御厚禮申上候、以御後無事卒業致  
し母校副手として養蠶科に勤務致す  
ことと相成候に就ては今後共不相變  
の御指導御鞭撻賜り度奉懇願候  
先は乍略儀御挨拶迄如斯御座候敬具  
昭和十六年四月  
蠶種學教室 北村 義近  
遺傳學教室 目崎 正夫  
病理學教室 松村 元一  
生理學教室 堀江 平三  
生理學教室 大坪 健一  
蠶種學教室 佐藤 彌  
蠶種學教室 清水 比呂夫

訂正

前號掲載藤澤正壽氏(長野縣下伊那郡伊那  
富村伊北農商學校に榮轉)御挨拶に於て遠山  
と誤植仕候に就き茲に訂正御誌申上候。



五月五日現在

片山 上原すず江	荻原さかむ	白井むつ理	石橋義徳	遠藤恒久	高木信雄	天野彰	櫻井隆夫	宮下丈夫	清水秀俊	茅野和雄	松島眞雄	中川督一郎	須藤義二	姜小洪	山口亮祐	井上正人	東場次郎	安部重	橫澤平	林本正平	石原六郎	小山雅夫	松井清三	佐藤彌	井上貞一	田中英一	榎内明	池田得治	松田逸朗	田中製装平	青柳敬之助	清水比呂夫	丸山喜久	竹下清					
(教)	(教)	(教)	(紡二〇)	(紡二〇)	(紡一五)	(紡一四)	(紡一四)	(紡一四)	(絲二八)	(絲二八)	(絲二八)	(絲二八)	(絲二七)	(絲二七)	(絲二七)	(絲二五)	(絲二四)	(絲二四)	(絲二二)	(絲二二)	(絲一一)	(絲一一)	(絲一〇)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二八)	(蠶二七)	(蠶二七)	(蠶二七)					
華中蠶絲株式會社(中支江蘇省鎮江縣高資鎮)	滿洲棉花株式會社調査課(奉天市揚武街一段興亞會館)(佳)協和街五ノ一六號別館內	本校養蠶科、副手	那是製絲本社原料課(十一月末迄岐阜縣加茂郡古井町那是美濃工場勤務)	那是製絲、蠶事所沼津支所(沼津市下河原町)	(勤)從前通り(住)水戸市常盤城新町	(勤)從前通り(住)東京市杉並區高圓寺七ノ九五五望月方	(勤)從前通り(住)東京市世田谷區上馬一ノ四二三勝明館	(勤)從前通り(住)新潟縣佐渡郡相川町本間タメ方	(住)京都市左京區北白川下池田町一三二山岡智方	本校養蠶科、副手	肥後製絲熊本工場(熊本市内坪井町)	甚三郎ト改名	達昌洋行「チャールス、ルドルフ商會」上海支店(佳)上海老靶子路二二四号驛ホテル	本校纖維化學教室兼、上田中學校(佳)上田市海野町片倉咸興製絲所(朝鮮咸鏡南道咸興五五)	滿洲棉蠶奉天支店(奉天市朝日區揚武街一段三四)(佳)奉天市場武衛一段三三梓軒ビル	召集解除(住)愛媛縣越智郡西伯方村宇叶浦	日東紡績、東京工場(東京市深川區東雲町二ノ三)	召集解除(勤)奈良縣橿原檢定所(高市郡八木町)	本校纖維化學科、副手	昭榮製絲二日市工場(福岡縣筑紫郡二日市町)	大山ト改姓	帝大航空研究所(東京市目黒區駒場町)	(東京府羽田)(佳)東京市品川区西大崎四ノ七八三川村方	(勤)從前通り(住)茨城縣日立市宮田濱ノ宮寮	(勤)從前通り(住)茨城縣日立市宮田濱ノ宮寮	(勤)從前通り(住)東京市目黒區三田一八八新昌閣	(勤)三菱商事株式會社生絲部(横濱市中區本町四ノ四三)	(勤)從前通り(住)勤務先道光館内	(勤)本校纖維化學科、助手兼講師(住)上田市日出町	日本副官絲統制株式會社(東京市麹町區九段四丁目七ノ五)(佳)東京市杉並區救急四ノ六八	召集解除(住)靜岡市鷹匠町二ノ一四	工商省名古屋輸出毛織物検査所(名古屋市區光音寺町)(佳)名古屋市中區德川町五ノ二八大田與四郎方	(勤)從前通り(住)上田市上鍛冶町四〇八〇萬桑延雄方	(勤)從前通り(住)大阪府泉北郡高石町四五〇ノ二長澤方	(勤)ナシ(住)松本市白坂町四〇五ノ一	昭榮製絲株式會社本社(東京市日本橋區吳服橋三ノ七)(佳)東京市本所區江東橋三ノ二根岸方	(住)長野縣小縣郡青木村天神	三星工業株式會社(東京市江戸區平井二ノ八七四)	片倉大宮試驗所(埼玉縣大宮町)



# 遠藤保太郎先生退官記念品贈呈資金募集

謹啓

時下初夏之候愈々御清適之段奉賀上候

陳者、遠藤保太郎先生が突然御家庭の御都合上御退官の上、急遽御歸郷被遊候ことは已に會報紙上に於て御承知の事と奉存候

遠藤先生の本邦蠶絲業界に寄與せられたる偉大なる業績、曳いて母校に對する熱々たる御勤功は、今更暇々を要せざる所と存候

實に母校御在職二十有五年の長きに亘り、校に在りては一意専心子弟の教養に、校務の軌掌に目も亦足らず、出でては著作に、研究發表に、又業界指導に専念され、斯業界に貢獻せられたる事は内外共に景仰する所にして常に吾々會員一同感謝措く能はざる所に御座候

今回御家庭の御都合とは申しながら、御歸郷の止むなきに至り候ことは實に母校のため遺憾たるのみならず、本邦斯業の爲にも非常なる損失と存じ極力、御留任を懇請致候も遂に容るゝ所とならず、此所に御決別致すことに相成候、洵に惜別の情に不堪次第に御座候

就ては、此の際先生の御功績を讃え、且多年の勞に酬いん爲め、資金を募集し、記念品を贈呈致し度候間左記御諒承相成御賛同の上御贈金被成下度此段御依頼旁々得貴意候

記  
敬具

一、贈出金額 御隨意

一、申込期限 本年九月末日

一、送金先 母校内千曲會

(振替長野六貳四參番) 遠藤先生記念品贈呈資金  
と明記のこと

一、受領證 千曲會報紙上

一、記念品 發起人に御一任度願

昭和十六年五月 日

發起人代表

蒲生俊興

## 編輯室より

△増産企畫の下、農産家は去る再度に亘る霜害で泣いても泣き切れぬ苦境に陥つたが、挽回の心構へと善後策に奮起して豫想を超へた成果を擧げるであらう。

△柳澤教授より『明日への備へ』の玉稿を得た。感謝に耐えない、軍需物資と科學及技術の上から國際關係を検討し科學者、技術者の奮起を望まる。

△味澤生氏の『江都雜信』は現都會生活者の生活ヤリクリをよく現はしてゐて面白い。紙面の都合で一部割愛削除した事を御諒承願ひたい。

△纖維化學科は愈々建物と陣容が整つて來て軌道に乗つた教育が出来ると言ふもの、精々御勉勵を願ふ。

△盛沢山澤山報國閣も、新學期から各班夫々華々しく活動を開始したが、この一年間の試運轉で何んな結論に到着するか。

△義に退職された恩師遠藤保太郎博士に記念品を贈呈すべく資金を募集す、各位ご何卒之に賛同、景仰の意を表せられたし。

△勵みでは居れど亦本號も遅れて申譯なし、御詫びを述べる苦衷を察し給へ。

## 廣告料

發行部 拾一回 發行部 拾一回 發行部 拾一回

裏表紙面(一回)	貳拾貳圓
表紙内面(一回)	貳拾圓
裏表紙内面(一回)	貳拾圓
中付ノ前後(一回)	拾圓
後付ノ前後(一回)	拾圓
半頁	一頁料金七ノ割
1/4	一頁料金四ノ割
割引	一〇回連載ハ三割引ノコト
五回連載ハ一割引ノコト	

◎料金ハ申込と同時に御拂込ミ下サイ  
◎銅版、凸版代ハ別ニ寶費頂戴致シマス

昭和十六年五月二十五日印刷  
昭和十六年五月三十日發行 (非賣品)

上田蠶絲專門學校内

編輯人 小松忠一郎

印刷人 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

印刷所 上田市原町五七九五

## 信濃教育株式會社 信濃教育株式會社

東京本店 電話二七三三番  
長野支店 電話一四一四番  
上田支店 電話五七三番  
松本支店 電話五七三番